

《今朝の聖書から》『ルカ福音書』1:26~38
が開かれます。イエス様の誕生と、神の子の母マリヤの物語で
す。福音書の記者ルカは、大胆にこの不思議な出来事を述べ伝
えています。理知的で判断力を持っていた。だから記録されて
いる出来事もはっきりしています。26節に“6ヵ月目に”と
書き始められていますが、この6ヵ月は“ゼカリヤが聖所で香
をたいた出来事”からのことでしょう。婚約状態にあった(い
いなずけ)ヨセフとマリヤから生まれたのが、イエス様である
ことはよく知っていますし、日常的理解を超える内容であるこ
ともよく知られています。聖書の系図を見ても、父はヨセフと
なっていますし、この出来事はさまざまな、批判的的となっ
てきました。しかし、教会生活を送り、私たちがそだててく
れている聖書を、もう一度見直すとき、“信じるのか信じないのか”
ということに私たちは立ち至るのです。“教会はそのように語
っている”という説明的理解、第三者の解説のような理解では、
信仰者自身が耐えられなくなるのです。ルカはこのことをよく
知っていました。“彼はエリヤの霊と力とをもって、みまえに
先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思い
を持たせて、整えられた民を主に備えるであろう(1:17)”
として説明し、32節では、イエス様のことを“彼は大いなる
者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、
主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、・・・”と説
明しています。また、否が応でもこの出来事に直面せざるを得
なかったマリヤにもヨセフにも、神御自身が御使を通して平安
をお与えになったことが判ります。“そこでマリヤは御使に言
った、「どうして、そんな事があり得まじょうか。わたしには
まだ夫がありませんのに」という不安が、“マリヤの賛歌”と
いう、比べ物のない“神への信頼”に変えられていく経過も記
しています。マリヤの出来事を聖書はこのように説明していま
すが、このことを信じなければならぬ、と現代の教会は教え
ていません。ただ“あなたは信じますか”と信じようとする人
に質問しているのです。この超自然的な出来事が、記念されて
いることを忘れないようにしましょう。

週報

2006年 12月 24日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸